

授業概要

学校図書館が担う学習センターとしての機能を十分に発揮できるようにする。そのためには、読書学習の実践的な理論を身につけておく必要がある。様々な読書活動を体験しながら、どのような力を育成することができるか話し合い、学習指導としての気づきを増やしていくことにする。
読書活動の豊かさや奥深を味わいながら、学校図書館の機能をさらに追究できる可能性を求めていきたい。

授業計画

第1回	教育課程の展開と学校図書館の活用
第2回	読み聞かせによる読書週間の形成
第3回	読み聞かせ交流会の設定
第4回	読書感想画の指導
第5回	小学校における調べ学習の指導
第6回	中学高校における調べ学習の活動
第7回	ストーリーテリングの活動
第8回	ブックトークの活動とその支援
第9回	学校図書館利用指導
第10回	テーマ読書の実践
第11回	ポップづくり
第12回	文学新聞の作成
第13回	漫画読書学習の可能性
第14回	メディア選択と司書教諭の創造性
第15回	読書交流会の展開
第16回	レポート提出 まとめ

到達目標

学習としての読書指導のねらいと実際を捉えて、様々な読書活動をコーディネートしようとする。
読書指導の方法を体験しながら、読書学習を推進していこうとする。

履修上の注意

教員をめざす者として遅刻をしないようにする。自分なりの感じ方や見方を出し合いながら、様々な考えを幅広く受け止め、自分の感性をさらに豊かにしていく姿勢で臨むこと。

予習復習

授業で扱った読書作品に関連・発展する作品等、調べて次時につなげる取り組みを行う。それが復習となり、予習につながる。

評価方法

各回における授業中の話し合い活動への参加状況（30%）授業中の振り返りおよび提出物（40%）最終レポートの提出と内容（30%）

テキスト

必要に応じて資料を配付する。なお、テキスト、参考文献等については、授業内で指示する他、適宜推奨図書を紹介したり、必要な資料を配布したりする。